

平成18年1月6日
内閣府（防災担当）

中央防災会議

「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」（第16回） 議事概要について

1. 専門調査会の概要

日時：平成18年1月5日（木）13:30～15:30

場所：虎ノ門パストラル 新館6階 「アジュール」

出席者：溝上座長、阿部、新谷、伊藤、今村、入倉、島崎、中埜、長谷川、濱田、山崎の
各専門委員、榊内閣府政策統括官他

2. 議事概要

事務局より、被害想定、防災対策について説明を行った後、各委員にご議論いただいた。
委員からの意見等は以下のとおり。

新潟県中越地震の際に上越新幹線が脱線した事例もあることから、東北新幹線においても地震に伴い脱線事故が発生する可能性やその対策について整理しておくこと。

「明治三陸地震」は、過去に実際に発生した地震と今後発生が想定される地震のどちらを示すかはっきりしない場合があるので、表現に工夫が必要である。

沖合で津波観測を行う等により、津波の予測精度の向上を図ることは重要である。

明治三陸地震などでは、津波による被害が広い範囲に及ぶことから、広域防災体制をとる必要がある。

斜面災害対策や避難路の整備などについては、関係機関が連携して実施していくことが重要である。

津波注意報や警報が発表された場合に、避難勧告を出すなどの自治体の対応の重要性について言及すべきである。

震災廃棄物を軽減するという観点からも、住宅等の耐震補強は重要である。

災害が発生した場合には、風評被害対策と合わせ、社会的に大きな影響を与える可能性のある流言に対する対策も重要である。

過去の地震でどれだけの被害があったのか伝承されていない場合もあるので、各自治体が利用しやすいように過去の被害データを整理しておくことは重要である。

<連絡・問い合わせ先>

内閣府 地震・火山対策担当参事官補佐 尾崎 友亮
同主査付 檜山 洋平

TEL：03-3501-5693（直通） FAX：03-3501-5199